

愛媛県看護協会 助産師職能委員会 ニュースレター

No. 1

■ ■ ■ ■ ■ 目次 ■ ■ ■ ■ ■

・ 助産師職能委員会の紹介	1
・ 助産師職能委員の紹介	2
・ 特集：母子のための地域包括ケア病棟の推進に向けて	3
・ 中国・四国地区助産師合同研修会 報告	4
・ 新人助産師研修 報告	4
・ 中堅助産師研修 報告	5
・ 交流集会 報告	5
・ 助産師職能委員会が開催する研修会情報	6
・ 助産師職能委員 リレー寄稿	6
・ 助産師活動に役立つ学会および研修会情報	7
・ 原稿を募集しています！ 入会手続きのご案内 編集後記	7

助産師職能委員会の紹介

委員長 嶋屋順子

はじめまして！私たちは愛媛県看護協会助産師職能委員会です。2020年の一人の女性が生涯に子どもを産む人数は1.34（合計特殊出生率）で、昨年から0.02ポイント下がり、5年連続の低下となりました。新型コロナウイルスの影響も重なり、2021年は一段と低下する可能性が高いといわれており、「超少子高齢化」の言葉を聞かない日はありません。母子を取り巻く社会環境は大きく変化し、様々な課題が挙げられています。その中で母子の健康な生活の実現に向けて、全ての妊産褥婦と新生児およびその家族へ助産師のケアを提供するために、私たち一人ひとりの助産師が「今、いる場所で」どのように考え、どのように活動していくかが問われているのではないかと感じています。その為には、助産師活動の情報共有・課題共有が最も大切なのではないかと思います。その情報源として、この度「愛媛県看護協会助産師職能委員会ニュースレター第1号」を発刊する運びとなりました。愛媛県では、助産師284名、産科に携わる看護師229名（令和2年）の方が活躍されています。日本看護協会助産師職能委員会の情報や私たち委員会の活動などをお伝えし、皆様の活動の一助にいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。また、皆様から様々なご意見や情報をお待ちしております。



愛媛県看護協会へ入会しませんか？最新の知識を得ることができます！職種を越えた仲間との交流もあります！共に母子に向けて質の高いケアを提供していきましょう。

助産師職能委員の紹介

石川 幸枝 (松山赤十字病院)

今年度、助産師職能委員として 6 年目になります。今年度で任期は終わりますが、看護協会員、職能メンバーとして多くのことを学ばせていただきました。少子高齢化で社会情勢が変わる中、助産師として母子へ関わり安心して子育てできるように支援をしていきたいと思っています。

上本 亜希 (愛媛大学医学部附属病院)

他施設の助産師との交流を通して、愛媛県下の助産師の関係を深めていきたいと思い、活動しています。これからも、いろんな情報の発信、提言など頑張って実践していきたいと思っています。

嶋屋 順子 (愛媛県立中央病院)

今は助産師活動から離れ 4 病院合同研修企画運営に携わっています。沢山の学びや気付きがある助産師研修を企画していきたいです。時々癒しを求め、赤ちゃんに会いに行きますが、それだけでパワーアップします。趣味はネットでの映画鑑賞(ホラー以外)です。

鷹子 知美 (市立宇和島病院)

変わった苗字で覚えてもらいにくいですが、妊産褥婦さんが笑顔でいられるように、気持ちに寄り添い心に残るケアを心がけています。趣味はバレーボール観戦です。

向谷 直美 (愛媛県立中央病院)

上記に同じく変わった苗字です。

よろしくお願ひします(^^) / コロナ禍、ネコとお昼寝です☺

**伊藤 美香 (愛媛県立医療技術大学)**

現在、大学教育に携わっていますが、これまでの臨床経験が私の強みと信じ、助産師教育に尽力していきます。現職についてから、人との繋がり大切さをより実感しています。皆様いつもありがとうございます♪

崎山 貴代 (愛媛大学医学部看護学科)

自身の専門性を活かし、また教育の視点を持ち、助産師の質の向上に貢献できればと思っています。また、ここで得た知識を教育に還元したいと思っています。趣味は楽器を演奏することです🎸

神野 奈美恵 (愛媛県立今治病院)

今年度、産婦人科混合病棟から外来部門へ異動になりました。発見と学びの日々を送っています。新たなポジションから、母子支援活動に関わることを模索しています。最近、心身の衰えに危機感を感じ、フィットネスジムへ通い始めました。

深川 由美 (愛媛労災病院)

働く場所が変わってもずっと母子に関わりたいと思っています。趣味は四国ダム巡りと冬キャンプです。

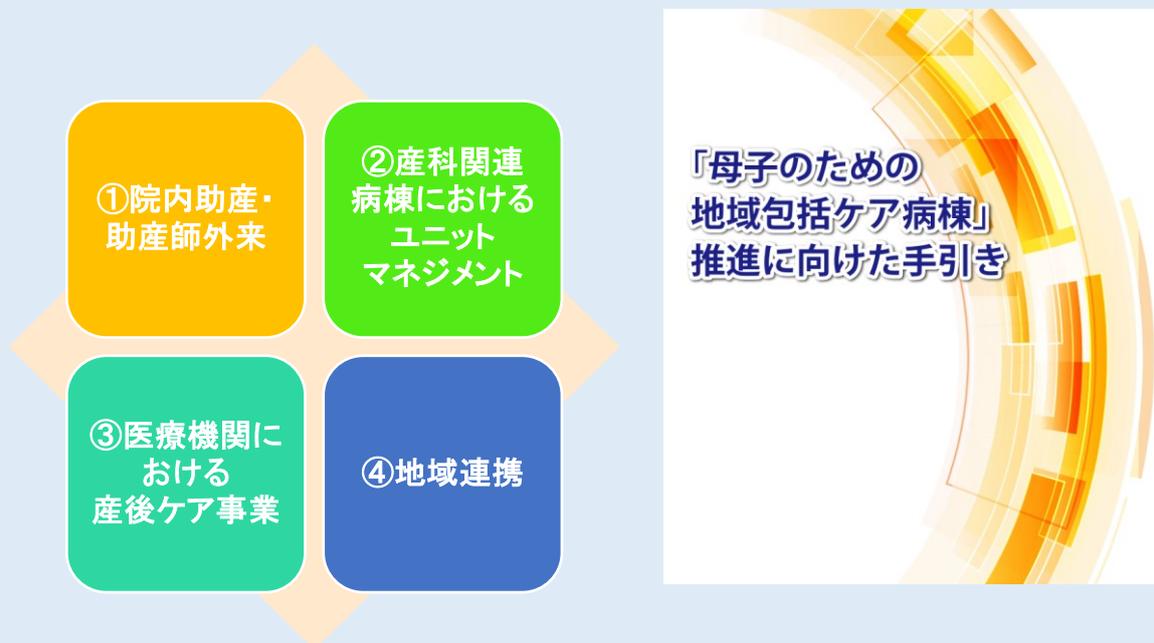


特集：母子のための地域包括ケア病棟の推進に向けて

日本看護協会は、2019～2020 年度に、「母子のための地域包括ケア病棟モデル事業」を立ち上げ、モデル事業の結果を通して、母子のための地域包括ケア病棟の開設・運営を本格的に進める方向性を示しました。令和 3 年 11 月中旬に、「母子のための地域包括ケア病棟」推進に向けた手引きが発表されましたので、内容を簡単にご紹介します。



「母子のための地域包括ケア病棟」とは、助産師をはじめとする看護職が妊産婦と新生児に集中してケアができる体制が整備され、妊娠・出産・子育て期において切れ目なく継続したケアが提供できる場と機能をもつ病棟のことを指します。「母子のための地域包括ケア病棟」には、下記の 4 つの条件を満たすことが必要となります。



「母子のための地域包括ケア病棟」の開設を検討するプロセスには、3 つの準備が必要です。1 つ目は**理念の明確化**です。施設や看護部の理念、医師の方針、提供したい助産ケアをすり合わせる必要があります。皆で話し合い、明文化することが大切です。2 つ目は**現状分析**です。施設が立地する地域の周産期データや利用者のニーズを収集します。具体的な方法につなげるためです。3 つ目は**開設準備**です。上記の 4 条件を満たすために、必要な体制やマンパワー、物品を検討すること、基準を作成すること、実施にあたる助産師を教育することなどが挙げられます。

「母子のための地域包括ケア病棟」の運営に手が届きそうな施設もあるかと思います。産科病棟の混合化が避けられない時代となっています。より厳しい状況下で助産師の役割をどのように果たせば職務満足が得られるのか、そして、何よりも母子の健康を守るための切れ目ないケアを提供するために、自施設でどのようなシステムとケアを考えることができるかについて、皆で考えを共有し、行動に移すことが求められています。手引きは、日本看護協会 HP に掲載されています。(崎山 貴代)

R3 中国・四国地区助産師合同研修会 報告



～母子のための地域包括ケアシステム推進ワークショップ in 島根～

令和3年10月16日（土）に「母子のための地域包括ケアシステム推進ワークショップ in 島根」が初のオンライン研修会として開催されました。現在、日本看護協会では、妊娠期から子育て期における切れ目のない安全・安心な医療・助産ケア提供体制に向け、医療機関と地域施設などが連携する「母子のための地域包括ケア病棟（仮称）」の周知・普及を進めています。このワークショップは、中四国9県のネットワークの強化に向け、情報共有を通して母子支援における地域の現状や課題を整理し、地域包括ケアシステムのあるべき姿の検討、すべての妊産褥婦に「助産ケア」を届けられるシステム構築を目指して行われました。

その中には、「母子のための地域包括ケアシステムモデル事業」に名乗りを上げた中国中央病院の発表がありました。ここは消化器内科+産婦人科の混合病棟ですが、ユニットマネジメントを整備し、助産師外来や院内助産を運営しています。院内助産システムは、特別なことを始めるといふより部署の助産ケアシステムを丁寧に見直すことがその実現を可能とさせること、基盤があればシステムの準備は整ったようなもの、ということが話されていました。

その他、産婦人科医の不在により分娩取扱施設でなくなったさぬき市民病院で、助産師がどのようにして院内助産システム運営にこぎつけたか、お話を聞くことができました。また、島根県立中央病院では、助産師によるアウトリーチ型産後ケア事業が行われており、実際に専用車で家庭訪問を行っているという具体的なお話を聞くことができました。

助産師が熱意をもって取り組んでいるお話を聞き、大変参考になりました！（嶋屋 順子）

R3 多施設合同新人助産師研修 報告

今年度の受講生は9名です♡

第1回目の9月24日（金）、「初めまして」「お久しぶり～」と愛媛県下の各病院から集まりました。午前中は、先輩の体験談です。市立宇和島病院 助産師 清水加奈さんからは、海外青年協力隊でのご活躍から家庭をもち助産師として働く現在までのお話を聴きました。コスタリカでの分娩室やお産のお話がとても印象的でした。もう1人の先輩講師である愛媛大学医学部附属病院 山内倫さんは、助産師3年目。自分達が目標とする助産師像となったことでしょうか。講師を交えてグループに分かれ、1年後の自分がどうかを発表しました。達成できるかな？

2月の第4回目でも話しあいましょう！楽しみですね(^_^♪

午後からは、香川県保健医療大学母性看護学教授の松村恵子先生より助産師クリニカルラーの基礎知識について、リモートでの講義を聴きました。新人助産師への熱いエールを頂きながら、ワーク・ライフ・ハーモニー、助産師のキャリアパスを考える機会となり、未来の自分を考えてみる機会となりました。

（向谷 直美）



R3 中堅助産師研修 報告

～妊娠と糖尿病 杉山 隆 先生（愛媛大学医学部附属病院 院長）～

R3年7月31日(土)、講師に杉山隆先生をお迎えし、「妊娠と糖尿病」のテーマで、中堅助産師研修会を開催しました。今回の研修会は、妊娠と糖尿病の基礎知識と最近の治療について改めて学び、妊娠期から産褥期における様々な場での母親に対する生活指導や保健指導に活かすことを目的としており、助産師・看護師31名の参加がありました。

杉山先生の面白くわかりやすい講義に、終了後のアンケートでは、ほとんどの方が研修内容に満足され、今後の実践にも役立つと回答していました。また、産後DICやHDPなどについて、今後の研修会で取り上げてほしいとの要望もありました。

中堅助産師研修会では、今後も皆様がブラッシュアップ、自己研鑽できるような内容を企画していく予定です。研修に参加することで他機関に勤めている助産師との交流も可能ですので、ぜひご参加ください。(伊藤 美香)



R3 交流集会 報告

～愛媛県における母子のための地域包括ケアについて - 産後ケア事業の展開 - ～

R3年10月30日(土)、愛媛県における母子のための地域包括ケアをテーマに、助産師だけでなく、保健師も参加しての交流会を行いました。最初に、嶋屋助産師職能委員長から日本看護協会の資料を用いて「妊娠期からの切れ目のない支援体制の構築に向けた取り組み」について話したあと、松山市と宇和島市から産後ケア事業概要と実績について、まつやま助産院と西条中央病院から産後ケアの取り組みの現状について発表がありました。グループワークでは、各施設・自治体の強みを生かした実践の様子や課題・取り組みにとどまらず、書面だけでは交わすことのない保健師・助産師間の交流が活発に行われていました。アンケート結果から、職種間で交流が持てたことに刺激を受けたという意見が多く綴られ、久しぶりに母子支援に携わる参加者からは「新たな動きを知り、勉強になった」という感想をいただきました。参加者が、地域の母子支援推進の足掛かりを得たのではないかと期待しています。(神野 奈美恵)



助産師活動に役立つ学会および研修会情報（2021 年 1 月～2022 年 7 月）

月	日	学会・研修会名	会場	開催事務局
1	8・9	第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会	WEB	大阪大学大学院 公衆衛生看護学教室
2	27	第 46 回全国助産師教育協議会全国研修会	WEB	鳥取県立倉吉総合 看護専門学校
3	13・14	第 27 回日本産婦人科乳腺医学会学術集会	WEB	アカデミアサポート
	19・20	第 36 回日本助産学会学術集会	WEB	インターグループ
4	22・25	第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会	WEB	新潟大学大学院 産科婦人科学教室
5	15	第 21 回日本不妊カウンセリング学会 学術集会	WEB	レタープレス
	20・22	第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会	神戸国際 会議場	神戸大学大学院 内科学講座
6	26	第 24 回日本母性看護学会学術集会	WEB	大阪医科薬科大学 看護学部

原稿を募集しています！

ニュースレターを通じて実践活動や求人などの情報を共有しませんか？掲載を希望される方は
愛媛県看護協会(nursing-ehime@circus.ocn.ne.jp)までご連絡ください。

次号の原稿締切日は、2022 年 6 月 17 日(金)を予定しています。

入会手続きのご案内

愛媛県看護協会へ入会し、助産師間で知識と経験を共有し、母子に向けて
質の高いケアを提供しませんか？

入会を希望される方は、下記までご連絡ください。

公益社団法人愛媛看護協会 事務局 E-Mail nursing-ehime@circus.ocn.ne.jp

編集後記



COVID-19 の発見から 2 年が経ち、以前には経験することのなかった WEB 学会や研修会にもすっかり適応した
ように感じます。WEB を用いた様々な支援方法もさらに拡大していますね。個人的には、マスク装着やリモート
授業が長期化したせいか、顔認証機能や表情筋が衰えた感があります。早く表情を見て、相互作用を交せる平和
な日々を取り戻したいです。(崎山 貴代)